

作成日:平成 25 年 1 月 9 日

改定日:平成 30 年 10 月 29 日

クールワン施工要領書

中央ペイント株式会社

〒532-0036

大阪市淀川区三津屋中 2-1-25

TEL 06-6309-4151

FAX 06-6309-4857

[1]施工要領

1. 作業に必要なもの

上塗り及び下塗りに関して	
ローラー・刷毛	一般に使用されているローラー・刷毛で問題ありません。
マゼール(攪拌機)	高速で回転するもの。
中塗り「クールワンベース」に関して	
ローラー	マスチックローラー細目又は、中毛ローラーを使用下さい。
タイルガン(吹き付け機)	大口径のノズルは避けて下さい。
マゼール(攪拌機)	高速で回転するもの。
空ドラム	廃液・排水処理用として。

2. 材料の説明

工程	名称	荷姿	水系/溶剤	希釈率 [%]	塗布量 [kg/m ² /回]
下塗り	クールワン プライマーEP	石油缶 20kg	溶剤系	20~30	0.15~0.18
	クールワン EPシンナー	石油缶 16L	プライマーEP専用シンナー		
	クールワン プライマーEPマイルド	石油缶 16kg	弱溶剤系	5~15	0.13~0.15
	クールワン EPマイルドシンナー	石油缶 16L	プライマーEPマイルド専用シンナー		
	クールワン プライマーA2	石油缶 15Kg	溶剤系	原液	0.10~0.15
中塗り	クールワン ベース	石油缶 15kg	水系	5~10	0.30~0.35
上塗り	クールワン トップU	石油缶 16kg セット 主剤 13.4 kg 硬化剤 2.6 kg	溶剤系	10~20	0.15~0.20
	クールワン Uシンナー	石油缶 16L	トップ U 専用シンナー		
	クールワン トップ SI マイルド	石油缶 14kg セット 主剤 12 kg 硬化剤 2 kg	弱溶剤系	5~10	0.15~0.20
	クールワン SI マイルドシンナー	石油缶 16L	トップ SI マイルド専用シンナー		

※上記の塗布量は標準的なものです。塗装方法や被塗物の形状の違いにより塗布量も変わります。

3. 下地処理

- ・施工では素地の表面の劣化層を取り除く必要があります。

鋼板屋根
皮スキやワイヤーブラシで表面の錆をできるだけ落とす。 ※粉っぽい錆は全て落とす。 ある程度、力を入れても除去できないものはそのまま可。

- ・鋼板のケレン面はプライマーEP又は、プライマーEPマイルドで予めタッチアップしておく。

4. 下塗り

材料比率 クールワンプライマーEP 20kg: 専用シンナー 4~6L
 クールワンプライマーEPマイルド 16kg: 専用シンナー 0.75~2.4L
 クールワンプライマー A2 15kg: 原液で使用

- ・下地の乾燥を確認する。(セロハンテープを簡単に貼ることができればOK)。
- ・素地に適したプライマーを全面に塗装する。
- ・鋼板でケレン箇所をタッチアップした場合、乾燥後にプライマーを全面に塗装する。
- ・塗装は、刷毛・ローラーが可能です。

プライマーの乾燥時間

[Hr]

材 料	季 節	夏 季
クールワン プライマーEP		6以上
クールワン プライマーEPマイルド		4以上
クールワン プライマーA2		3以上

5. 中塗り

ローラー塗装

材料比率 クールワンベース 15kg: 上水 0~0.75L

塗装は、マスチックローラー細目又は中毛ローラーを使用して下さい。

拭き付け塗装

材料比率 クールワンベース 15Kg: 上水 0~1.5L

素地の傾斜が大きい場合は希釈割合を下げてください。

- ・材料は十分に攪拌して下さい。
- ・クールワンベースの塗装は素地の形状に合致させて下さい。
一度にたくさん塗装すると垂れてきます。
※中毛ローラーを使用の際は、ベースは2回塗りして下さい。
1回では、膜厚が得られません。
- ・塗装終了後の洗浄水(排水)は予め、用意しておいた容器(ドラム缶など)に入れる。
※廃水は流さず持ち帰り、産廃業者に処理を依頼する。

・クールワンベースの乾燥時間

[Hr]

	季節	夏季
材 料		
クールワンベース		4以上

6. 上塗り

材料比率 クールワントップU 主剤 13.4 kg:硬化剤 2.6 kg: 専用シンナー 1.6~3.2L
クールワントップ SI マイルド 主剤 12 kg:硬化剤 2 kg: 専用シンナー 0.8~1.6L

- ・クールワンベースの十分な乾燥を確認する。
- ・塗装は、刷毛・ローラーが可能です。

・トップコートの乾燥時間

[Hr]

	季節	夏季
材 料		
クールワントップ U		24 以上
クールワントップ SI マイルド		24 以上

[2]施工管理

1. 水性塗料の基本的事項

- 気温が5℃以下の日は使用できません。
- 4時間以内に降雨が予想されるときは施工を中止する。

2. 飛散防止

- 周辺的环境から判断して飛散防止ネットを付ける。

3. 材料の保管

- 屋根のある倉庫が望ましい。湿気の多い場所は避ける。
- 屋外に保管する場合は水はけの良い場所を選び、必ずパレットに乗せておく。
- また降雨に備えブルーシートをかぶせる。
- 直射日光もできるだけ避ける。

4. 天候の把握

- 天気予報の確認と、当日の空模様や風向きを常にチェックする。
- 夏季の夕立に対しては早い段階で作業を中止するようにする。
- また、結露に対しては、素地が十分に乾くまで次工程のスタートを遅くさせる。

5. 産廃処理

- 残材及び刷毛等の洗い水は溝へ流さないで下さい。
- 産廃として処理して、マニフェストは保存する。